

長井市立図書館 企画展

長井の俳人たち

会期 二〇二五年二月二十二日(金)～三月二十日(木・祝)

会場 長井市遊びと学びの交流施設 くるんと 長井市立図書館カウンター前

主催 長井市立図書館

共催 山形大学社会共創活動推進プロジェクト 石黒研究室

協力 長井市



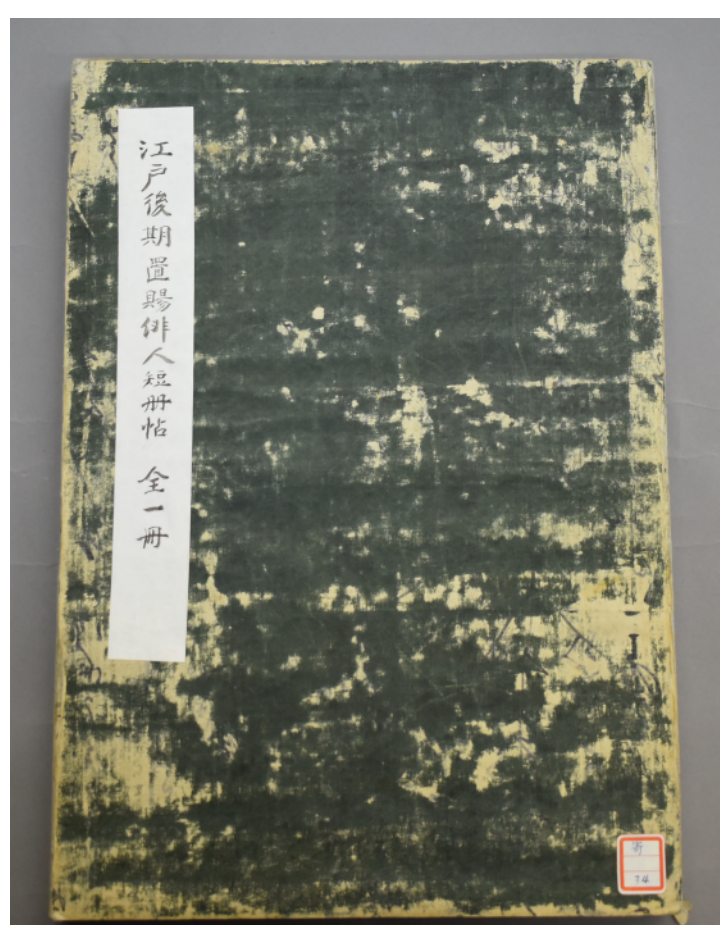
長井の俳人たち

長井市立図書館 企画展

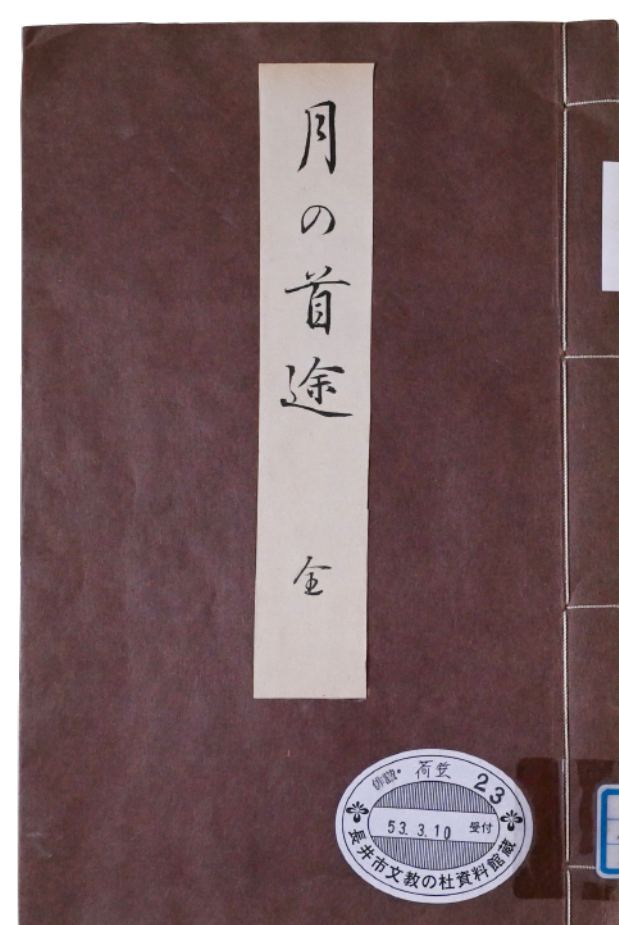
江戸時代、諸国を旅して俳諧を詠む俳人たちの活動が活発になり、米沢城下にも各地の俳人が訪れ、城下の武士や町人と交流を重ねていました。俳諧とは、正しくは俳諧連歌といい、五七五の発句と、七七の脇句を互に詠み連ねていく「連歌」から派生した歌の形式で、庶民の娯楽文化として親しまれたものでした。

松尾芭蕉門下の各務支考（1665－1731）に始まる「美濃派」の出である、安田以哉坊（1715－1780）が明和二年（1765）に米沢を訪れます。その米沢来訪を企画した、小出村の綿織物商である川崎涼花は、本名を川崎市郎右衛門といい、息子で本家を継ぐ川崎荷笠（1726－1795、本名次郎右衛門）、三男で分家となる川崎李因（本名八郎右衛門）とともに、長井地域の俳諧文化を牽引する存在でした。また、川崎涼花の妻は荒砥（白鷹町）の豪商で、俳諧の宗匠（指導役）であった大貫家の出自で、涼花の娘も大貫衛足（本名吉左衛門）に嫁いでいます。

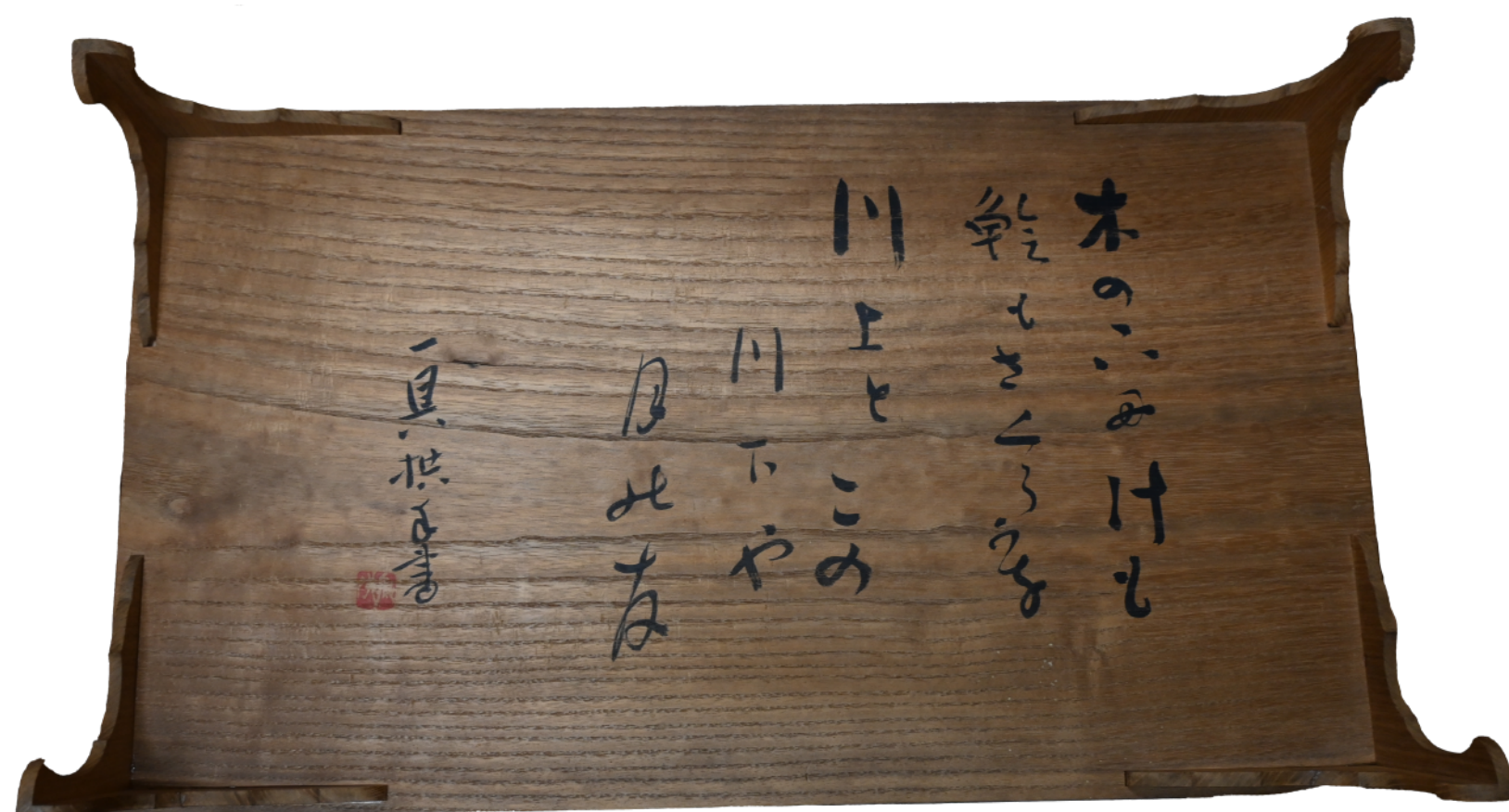
今回は、長井市立図書館の元館長であり、郷土史家であった川村吉弥氏が残した俳諧資料を中心に、長井の俳諧の歴史に触れる展示を行います。ぜひ、ご覧ください。



『江戸後期置賜俳人短冊帖』 長井市所蔵
江戸後期、米沢 渡部伊右衛門広繁 製作



川崎荷笠 編著『月の首途』 長井市所蔵
明和二年（1765）、京都橘屋治兵衛 刊行



「文台」 長井市所蔵

木の下に 汁も 鱈もさくらかな
川上とこの 川下や 月の友
一具拱手書

長井市 MAP



企画 長井市立図書館

山形大学社会共創活動推進プロジェクト「長井の歴史発見！プロジェクト 2」/
山形大学人文社会科学部 石黒研究室

協力 長井市 / 文教の杜ながい

お問い合わせ

長井市立図書館 TEL / 0238 - 88 - 2535

〒993-0007 山形県長井市本町一丁目 1-1